

第25回広島矯正管区教誨師研修会

研修事業評価委員会議事録

1 日時

平成25年6月27日(木)

2 場所

ホテルモナーク鳥取(鳥取市永楽温泉町403)

3 参加者

- (1) 大会実行委員長ほか教誨師3名
- (2) 広島矯正管区成人矯正第二課職員3名
- (3) 鳥取刑務所(教育担当)職員2名

4 実施方法

公益財団法人JKAに対する完了報告書には、「事前計画/自己評価書」の添付が義務付けられており、研修会終了後には事業評価委員会を開催して研修会を総括する必要があることから、出席者にアンケート用紙を配布し、感想等を記入し回収後、アンケート用紙を基に大会を検証した。

アンケート結果は別添。

5 アンケート内容(抜粋)

(1) 研修テーマについて

- ア 再犯防止が求められる今のニーズに合致しており適切であった。
- イ 刑事司法と福祉をどのようにつなげていくのかが課題となっている中、教誨師の役割も重要であることが理解できる適切なテーマ及び内容だった。
- ウ 地域生活定着支援センター及び刑務所における支援事例の発表から出所後の支援システムを理解することができ、目的及び方向性を持って教誨を行うことの必要性を感じる適切なテーマ及び内容だった。

以上の意見が主だったものであり、研修会参加者においても計画通りの参加者を得て、事業を実施することができ、成功と考えている。研修テーマにおいても、主題や副題が矯正に対するニーズに合致しており、内容も伴っていたといえるという意見が多かった。

(2) 研修の成果について

- ア 刑務所で行われている福祉について理解することができた。
- イ 刑務所における社会福祉士の役割及びその重要性について理解すること

ができた。

ウ 刑務所における再犯防止活動が良い方向に向かっていることが実感できた。

基調講演及び講演とも、帰住先のない高齢受刑者及び障害を持つ受刑者に対する福祉支援体制がテーマとなっており、再犯率の高い受刑者の特徴や再犯防止に向けた取組の一環である特別調整等の福祉支援体制について講演がなされ、再犯防止に向けた教誨師活動の在り方及び受刑者の健全な社会復帰に向けた効果的な教誨師活動について考察を深めるよい機会となったとの意見が多く見られた。

6 総括

教誨を受けることにより、自己の改善更生につながる例は多く、被収容者にとって教誨師に対する思いは強い。研修会を通じて有効な教誨師活動の方向性を見出すことで、ひいては被収容者の再犯防止につながり、社会が望む刑事政策の一翼を教誨師会が担っていると考えられる。社会とつながりを考えれば、大きな視点からも、今後の教誨師活動を継続していくのはもちろんのこと、全国各地で開催される研修大会及び研修会も継続の方向で考えてもらいたいし、また継続していくことに大きな意義があると考えられるという意見をもって評価委員会を終了した。